

PASTORAL

牧歌礼讃

REDEMPTION.



アンドレ・ボーシャン《川辺の花瓶の花》1946年 個人蔵（ギャラリーためなが協力）

GLIMPSES OF

／ 楽園憧憬

PERFECTION

藤田龍児十



藤田龍児《茶杯の家》1986年 星野画廊

会場 | 東京ステーションギャラリー
休館日 | 月曜日（5/2、7/4は開館）
開館時間 | 10:00～18:00（金曜日～20:00）＊入館は閉館30分前まで
主催 | 東京ステーションギャラリー [公益財団法人東日本鉄道文化財団]
[ウェブサイト] www.ejrct.or.jp/gallery

2022.4.16

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



SAT /

7.10 SUN

ANDRÉ BAUCHANT + FOUJITA RYUJI



アンドレ・ボーシャン《トゥーレーヌの風景》1940年 個人蔵（ギャラリーためなが協力） ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E4538

じわじわ効きます、しみじみ沁みます。



藤田龍児《静かな町》1997年 松岡真智子氏蔵

アンドレ・ボーシャンと藤田龍児。

活躍した時代も国も異なる二人の画家ですが、その作品はともに明るい色彩にあふれ、花が咲き乱れる、牧歌的で、楽園を思わせる光景が描かれています。しかし、彼らは恵まれた幸福な環境で作品を描いていたのではありません。アンドレ・ボーシャン(1873-1958)は第一次世界大戦に従軍しましたが、除隊後に故郷へ戻ると、経営していた苗木農園は破産し、妻はその心労から精神を病んでいました。彼が本格的に絵を描き始めたのはこの頃のことです。それまで絵を学んだことはなく、しかもすでに46歳になっていました。一方、藤田龍児(1928-2002)は若い頃から画家として活動をしていましたが、50歳を目前にして2度の脳血栓をおこし、右半身不随となってしまいます。一時は絵を諦めかけますが、左手に絵筆を持ち替え、3年後に再起を果たしました。それまでは抽象的な作品を描いていた藤田が、牧歌的な作品を描き始めたのはこの時のことです。絶望の淵から二人を救ったのは絵を描くことでした。彼らの作品が魅力的なのは、絵の力を、アートのを彼らが信じて疑わなかったからではないか、と思わずにはいられません。

アンドレ・ボーシャン

藤田龍児

牧歌礼讃 ／楽園憧憬



アンドレ・ボーシャン《芸術家たちの聖母》1948年 個人蔵（ギャラリーためなが協力）



藤田龍児《軍艦アパート》1990年 大阪市立美術館



藤田龍児《啓蟄》1986年 星野画廊



アンドレ・ボーシャン《トゥールの大道菜売り》1944年 個人蔵（ギャラリーためなが協力）



アンドレ・ボーシャン《タルロスでアントニウスに会うウロボロス》1952年 個人蔵



藤田龍児《古い花》1973年 個人蔵

【入館料】 一般 1,300円、高校・大学生 1,100円、中学生以下無料

【チケット購入】 日時指定券＝当館ウェブサイト www.ejrcf.or.jp/gallery

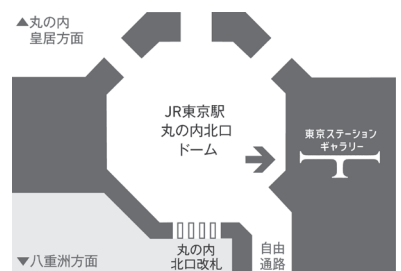
当日券＝東京ステーションギャラリー1階入口

*展示室内の混雑を避けるため日時指定制を導入し、各時間で入館人数の上限を設定しています
*館内でも当日券をご購入できますが、土日祝など混雑する時間帯は入館をお断りする場合があります
*障がい者手帳等持参の方は100円引き（介添者1名は無料）
*招待券/招待ハガキをお持ちの方や無料に該当する方は直接美術館へお越しください（予約等不要）

【次回展覧会】 東北へのまなざし 1930-1945 7/23(土)～9/25(日)

◎会期中、一部展示替えがあります（前期 4/16～5/29、後期 5/31～7/10）

◎新型コロナウイルス感染拡大防止対策など、ご来館前に当館ウェブサイトにて最新情報をご確認ください



東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

【住所】〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-9-1
【TEL】03-3212-2485 【交通】JR東京駅 丸の内北口 改札前